

博士論文審査結果報告
Report on Ph.D. / Doctoral Dissertation Defense
National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS)
 Professor HOSOE, Nobuhiro

審査委員会を代表し、以下のとおり審査結果を報告します。

On behalf of the Doctoral Thesis Review Committee, I would like to report the result of the Doctoral Dissertation Defense as follows.

学位申請者氏名 Ph.D. Candidate	Sharif Mosharraf Hossain		
学籍番号 ID Number	PHD14104		
プログラム名 Program	Policy Analysis Program		
審査委員会 Doctoral Thesis Review Committee	主査 Main referee	細江 宣裕 HOSOE, Nobuhiro	主指導教員 Main Advisor
	審査委員 Referee	土谷 隆 TSUCHIYA, Takashi	副指導教員 Sub Advisor
	審査委員 Referee	諸星 穂積 MOROHOSI, Hozumi	博士課程委員会委員長代理 Acting Chairperson of the Doctoral Programs Committee
	審査委員 Referee	大槻 恒裕 OTSUKI, Tsunehiro (大阪大学国際公共政策 研究科)	外部審査委員 External Referee
論文タイトル Dissertation Title (タイトル和訳)※ Title in Japanese	General Equilibrium Analysis of Globalizing Capital and Labor Mobility: Its Impacts on Growth, Poverty, and Inequality 国際化する資本・労働移動の一般均衡分析: 経済成長、貧困、および、不 平等への影響		
学位名 Degree Title	博士 (国際経済学) Ph.D. in International Economics		
論文提出日 Submission Date of the Draft Dissertation	2019年5月16日	論文審査会開催日 Date of the Doctoral Thesis Review Committee	2019年6月13日
論文発表会開催日 Date of the Defense	2019年6月13日	論文最終版提出日 Submission Date of the Final Dissertation	2019年8月21日
審査結果 Result	合格 Pass		

※ タイトルが英文の場合、文部科学省に報告するため、和訳を付してください

Please add a Japanese title that will be reported to MEXT.

1. 論文要旨 Thesis overview and summary of the presentation.

グローバル化する世界経済の中にあつて、労働や資本の国際的移動が途上国にとってあらたな政策的イシューとなっている。国外への労働移動は、国内の失業問題を緩和し国内の労働市場を安定化させる。また、外国で得た所得を国内にいる家計へ送金することで、国内の貧困の解消に貢献する。このように労働が過剰で、一方、資本が不足しがちな途上国にとって、海外からの直接投資(foreign direct investment, FDI)は経済成長のための制約を緩和する効果を持つ。また、長期的には技術移転等を通じた生産性上昇効果が期待される。ただし、これらの影響がどの程度か、また、誰がどれだけ利益や不利益を得るのかは、一概には言えない。

第2章で議論されるように、既存研究においては、グローバル化はまずは財・サービスの貿易自由化として捉えられ、広く研究されてきた。世界規模の貿易自由化交渉である、一連の GATT/WTO ラウンド交渉や、各国ごとに行われる FTA 交渉ごとに、その影響を数量的に把握するということは、政府や国際機関にとって一種のルーチンと呼べるまでになった。ただしそこでは、資本や労働(あるいは国民)が国境を越えることがないという設定がなされている。しかし上で書いたように、グローバル化はさらに深化し、国境さえ溶かしはじめている。このような状況に関して、当然、既存研究においても一定の分析がなされてきた。しかしながら、それらは FDI の経済成長への効果といったマクロ的な分析か、あるいは、国際送金の受け取りが国内家計の貧困や人的資源投資に与える影響といったミクロ的な分析がほとんどである。マクロとミクロの間の相互関係、あるいは、主要産業と個別の家計間の相互作用を明らかにするといったことは、一国経済全体を描写できる包括的な分析の枠組みを用いなければ明らかにできない。

この博士論文では、この資本・労働の国際移動という問題を分析するために、応用一般均衡(computable general equilibrium, CGE)モデルと呼ばれるマクロ経済モデルを構築し、こうしたマクロとミクロの間の相互関係を考慮した分析を行った。そこでは、

国内に雇用機会を見いだせない労働者が国外へ移動し、それに応じた海外送金を行う様子を描写した。また、主要産業である衣料品産業への FDI が、バングラデシュ経済に与える影響もシミュレーションによって計量的に把握した。その中で、中心となる分析は 2 種類あり、(第 1 章の序論、第 2 章のサーベイに続く)第 3 章では静学的な CGE モデルを用いて、衣料品産業への FDI がバングラデシュのマクロ経済や各産業の生産・輸出といった主要な経済変数への影響を見た。それらの影響は、最終的に都市・農村、および、所得階層で 8 種類に区分された家計部門の中で、誰がどれだけ利益・不利益を受けるかを明らかにした。その結果、FDI によって相対的に資本過剰になることから、資本所得に大きく依存する一部の家計が不利益を被ることがわった。そこで、その状況を政策的介入によって補正するという政策シミュレーションを行った。当該家計に対して、非熟練労働者を熟練労働者や海外労働者へと教育・訓練するプログラムを考え、これらを通じて労働所得の向上させることを検討し、FDI の増加で被った不利益の一部ないし全部を補いうることを示した。

第 4 章では、第 3 章では捨象された動学的な側面と労働市場の詳細に焦点を当てて分析した。すなわち、動学的 CGE モデルを構築して FDI を含む資本蓄積を陽表的に考慮し、また同時に、人的資本蓄積も考慮した。途上国において失業は大きな問題である。また、海外への出稼ぎ労働も重要な所得源であり、さらには、国内外の労働市場間には一定の相互作用がある。これらを考慮できるように労働市場に関してモデルを詳細に作り込むことで、個別市場に発生した外生的ショックの影響や政策的介入の効果を、マクロ経済全体で分析した。動学モデルを用いることで、これらの影響・効果が、短期的にどれくらいラグを持って表れるのか、また、長期的にどのくらいの規模で発現するのかを明らかにした。具体的には、バングラデシュの主要な労働者送り出し先である中東経済の落ち込みを想定し、海外労働市場で賃金率が低下したときに、海外送金や国内への労働者の帰還とそれによる国内労働力のだぶつきが、8 つに区分した家計の厚生に与える影響を測った。このネガティブなショックに対して、政策的

介入として FDI の受け入れ促進や未熟練労働者の教育・訓練プログラムを考え、それらが救済できる家計の属性と程度をシミュレーションによって明らかにした。

2. 審査報告 Notes from the Doctoral Thesis Review Committee (including changes required to the thesis by the referees)

この博士論文の主要な貢献として以下のものが認められる。まずは、従来型の財・貿易自由化を前提としたグローバル化の分析ではほとんど行われていなかった、資本・労働の自由化の影響分析のための拡張を CGE モデルに施したことである。これによって、マクロ経済をミクロ経済的裏付けをもって分析する CGE モデル分析の新たな手法を開発することができた。また、この手法を実際のバングラデシュ経済に適用し、当該国が直面する問題の影響の大きさを測り、また、その影響を緩和するための具体的な政策的含意を得ることができた。この研究を通じて、この手法の適用範囲はバングラデシュの 2000 年代初頭の FDI や国際労働移動といった問題に限定されるものではなく、また、限られた一部の研究者のみに扱うことができる特別なツールというわけではなく、実用的な政策分析のためのツールとして、広く利用可能であることを示すことができた。

口頭報告の結果、論文はおおむね十分な完成度を持つものであることが確認されたが、一方で、いくつかの点について修正意見が出た。具体的には、

- ・ FDI による技術のスピルオーバー効果や、海外送金がそれを受け取った家計による人的資本蓄積に与える効果等に関していくつか既存研究があるので、その成果について議論すること
- ・ 付録に示したモデルの方程式体系に関して、数式内容に関する説明を追加して CGE モデルに詳しくない読者であっても理解できるようにすること
- ・ シミュレーションの結果が、一見、自明なものに見えてしまっているため、背後にあるメカニズムに関して説明を追加すること

といった修正意見が出された。くわえて、文章一般に、記述の重複や冗長な点についても刈り込むことが求められた。

3. 最終提出論文確認結果 Confirmation by the Main Referee that changes have been done to the satisfaction of the referees

すべての修正意見に基づいて改稿を行い、再度、改稿点に関するノートとともに審査員全員に原稿を送付した。審査の結果、必要な修正が行われた結果、合格水準に達していると判断された。

4. 最終審査結果 Final recommendation

審査委員会は、上で示したとおり博士論文として優れた学術的貢献があるものと認め、Sharif Mosharraf Hossain に対して博士号を授与するに値すると判断する。